

製品名: PAK3 (1O10) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe15708**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.24mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02%新型保存料 N、50%グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:20000,IHC 1:100-1:200
分子量	62kDa

抗原情報

遺伝子名	PAK3
別名	Beta PAK; bPAK; CDKN1A; hPAK3; MRX30; MRX47; OPHN3; PAK3beta; Pak65alpha; Pak65beta; Stk4;
遺伝子 ID	5063.0
SwissProt ID	O75914
免疫原	ヒト PAK3 の合成ペプチド

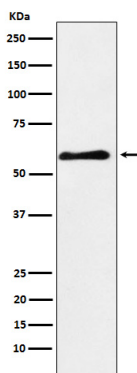
背景

PAKタンパク質は、Rho GTPaseを細胞骨格再構成および核シグナル伝達に結び付ける重要なエフェクターです。PAKタンパク質は、低分子GTP結合タンパク質であるCdc42およびRACの標的として機能し、幅広い生物学的活性に関係しています。PAK3は、GTP結合RAS様(P21)、CDC2、およびRAC1タンパク質と活性化複合体を形成し、さまざまな標的を触媒します。細胞骨格制御、細胞移動、または細胞周期制御を含むさまざまな異なるシグナル伝達経路で役割を果たすセリン/スレオニンタンパク質キナーゼ。樹状突起棘の形態形成、シナプス形成および可塑性で役割を果たします。低分子GTPase CDC42およびRAC1の下流エフェクターとして機能します。活性CDC42およびRAC1の結合による活性化は、構造変化とそれに続くいくつかのセリンおよび/またはスレオニン残基の自己リン酸化を引き起こします。MAPK4およびMAPK6をリン酸化して、下流標的であるF-アクチン重合および細胞遊走の調節因子であるMAPKAPK5を活性化する。さらに、TNNI3/トロポニンIをリン酸化して、カルシウム感受性および細いミオフィラメントの弛緩速度を調節する。また、初期神経発達にも関与している可能性がある。海馬ニューロンでは、樹状突起棘および興奮性シナプスの形成に必須であり、この機能はキナーゼ活性に依存しており、ミオシンII調節軽鎖(MLC)のリン酸化を介してアクチンミオシン収縮能を調節することで発揮されると考えられる(類似性による)。

研究分野

神経科学

画像データ



ヒト胎児脳溶解物中のPAK3発現のウェスタンブロット分析。